

第 2790 地区 R L I
第一回ファシリテーター
ブラッシュアップ研修会
記録

2023 年 9 月 3 日（土） 於 千葉市民会館





第1回FTフラッシュアップ研修会 鶴沢和広ガバナー年度
司会進行 佟 雪蓮（白井RC）



開講にあたり RLI 推進委員長 清田 浩義（千葉RC）

改めて皆様、こんにちは。今、佟さんが、少し涼しいと言いましたが、お暑い中、お集まり頂いて、ありがとうございます。2月になりましたけれども、本当にまだ暑い日が続いております。また、本日は、本年度最初のRLI推進委員会のプログラムです。皆様にはお休みのなか、日曜日にお集まり頂いて、ありがとうございます。これから、第1回、本来であれば、DLブラッシュアップ研修会ということですが、今年度、皆さんご存知のように、トレーニングから、ラーニングへ、そして、研修から、学習へ。というふうに、国際ロータリーの考え方が変わって、DL（ディスカッションリーダー）という言い方も、RLI方式のところで、ファシリテーター（以下FT）ということに、名称を、呼称を変えようということになりました。ということで、今回は第1回FTフラッシュアップ研修会。ということに、なります。ですから、今日から我々はですね、DLと呼ばれずに、ファシリテーター（FT）こういうふうに、呼ばれる。ということでもあります。是非、御理解を頂ければと、思います。それから、冒頭、佟さんからもお話ありましたように、本来、最初のプログラムでありますので、是非、ガバナーにということで、お声がけさせていただきました。お忙しいということで、閉講式に、お越しいただきます。宜しくご理解いただければと思います。毎回お話をしているように、国際ロータリーの基本的な考え方が、どん



どん変わってきております。また、皆さんも、クラブのなかで、活動しているときに、いろいろな事が、回るか、回らないか、というときに、リーダーの有り方。それから、クラブのなかの研修の有り方みたいなところも、いろいろお考えになるところも、あると思います。今日のですね、皆さんのお手元に、「ファシリテーターハンドブック」を、今日皆さんに、お渡ししましたが、あとで、副委員長の周藤さんのほうから、中身についてお話して頂くことに、します



が、このハンドブック、私も読んでですね、全部読み通して、本来、いままで、RLIの活動をしているなかで、DLという、立ち位置で、皆さんといろいろと、お話させて頂いて、コミュニケーション取らせて頂くことが、多かったんですが、自分たちが、依って立つところ。ファシリテーターには、DLとして、依って立つものが、どうもないなということで、悩んでいたところ、今回、私的にも、素晴らしい、我々が依って立つ、ガイドブックができたなということを、思っています。推進委員会のなかではですね、我々は、「我々のバイブルにしよう。」こんなふうな、話しをさせて頂いているぐらい、ひとつひとつ懇切丁寧に、書かれているテキストです。是非、皆さんですね、これから、今日、スタートですが、このガイドブック、皆さんとともにやっていきたいなと、というふうに、思っています。それから、先程お話しましたけれども、国際ロータリーがトレーニングからラーニングへというふうに、物の発想を変えたというふうに言っても、過言ではないかもしれません。皆さんのお手元にも、国際ロータリーの、ラーニング&デベロップメントのディレクター。サラ・ラミアンさん。という方の、メッセージが、メールで届いていたかもしれませんが、その中に、こんなふうに書いてありました。参加者が中心。参加者を活動の中心に据えることを求める、行動計画の一環として、ロータリーでは、研修モデルから、ラーニングモデルに、アプローチを変えようとしています。これは、会員がラーニング、学びに、積極的に関与し、それを自らコントロールできるように、することを、意味します。また、どんなにラーニングは、ラーニングにおけるリーダーの役割が、会員が知るべきだと思える情報を、教える講師という、部署ではなく、会員が、アイデアを共有できるような導く、ファシリテーターとし



での役割を、果たすことを意味します。こんなふうに書いてます。今回、地区の、ロータリーの研修委員長、ロータリーの情報委員長が、ロータリートレーニングファシリテーターという、言い方に代わったり、寺嶋地区研修リーダーは、地区ラーニングファシリテーターという、ふうに名前が変わっているんです。そんな流れになっていますので、今回第1回の、ファシリテーターブラッシュアップ研修会を、そんな流れにのった、この3回にわたる、ブラッシュアップ研修会になると思います。是非、お付き合いをよろしくお願い致します。それではですね、今年度初めてということで、ちょっと推進委員の皆さんに、前に出てきて頂いてですね、ちょっと紹介をしたいと思います。推進委員の皆さん、前に出てきて頂けますか。

今日は、千葉RCの東さん、最近コロナにかかってしまったということで、欠席になりました。



自己紹介です。

副委員長 周藤 行則（浦安RC）

皆さん、昨年度、推進委員長と大変な、役だったんですが、今回はまた、副委員長ということでですね、皆さんと、ご一緒に勉強をさせていただきますので、どうぞ、ひとつよろしくお願ひします。



青木 洋明（千葉北RC）

千葉北RCの青木と申します。今年度はですね、清田さんの後を継いで、RLI実行委員会、委員長ということで、非常に、重要な役職に就かせて頂きまして、本当に皆さんに、喜んで頂けるように一生懸命頑張っていきたいと思ひますので、是非、よろしくお願ひいたします。



神崎 誠 (成田 RC)

成田 RC の神崎です。推進委員は、広報をしろということで、スケジュール的に佟さんが、一生懸命やってくれると思います。よろしくお願いします。



佟 雪蓮 (白井 RC)

白井 RC の佟雪蓮と申します。初めて、推進委員会に入れさせて頂いて、神崎さんと一緒に、広報を担当しておりますが、皆さんと協力をして頂きながら、助けて頂きながら、やっているところなので、がんばっていきたいと思います。よろしくお願いします。



松岡 邦佳 (木更津東 RC)

木更津東 RC の松岡と申します。推進委員会は、一昨年から、一年空いて、また今年度も、推進委員会の、何をやるか、よくわかっていないのですが、その、推進委員会の何かをやらせて頂く予定になっておりますので、これから、皆様に、実行委員として、参加頂いて、御協力を頂くことも、多々あるかと思えますの、是非、毎回の出席と、懇親会の出席をよろしくお願いしたいと思えます。一年間、よろしくお願い致します。



RLI 推進委員長 清田 浩義 (千葉 RC)

はい、皆さんありがとうございます。松岡さんはですね、私の役割なんですか。と言いますが、実は、今回、実行委員長を青木さんをお願いして、実行委員の、副実行委員長ということで、実行委員会を回して頂くパートナーとして、活躍いただく、パートナーとして。今回実は、それぞれ役割を、もってやりましょうということと、あとで青木さんからお話あるかもしれませんが、ロータリー、RLI 推進委員会というものは、ひとつの縮図として、なんとか回っていかないといけないということも、私も6年、ちょうど諸岡さんのときに、一緒に、やり始めて、是非、次年度はですね、もっともっと皆さんと、うまく回っていけるような仕組みに、したいなということで、それぞれ役割を、決めました。広報のほうは、神崎さんと佟さんということで、この第2790地区、今、10クラブほど、まだ未参加の、RLI 未参加のクラブがあるので、今年度是非、皆さんに御参加頂こうと、こんなふうに、思っています。というメンバーです。是非、よろしくお願い致します。どうもありがとうございます。ということで、私から、ご挨拶をさせて頂きました。改めて、今年度、皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。



今年度 実行委員会 運営について RLI 実行委員長 青木洋明 (千葉北 RC)

みなさん、こんにちは。今年度ですね、先程も皆さんにお話したかと思いますが、清田さんの後を引き継ぎまして、私が実行委員長ということで、非常に思い役職に就いたということで、皆さんに、是非楽しんで、頂けるような、そういう実行委員会を作っていきたいなと思っていますので、是非、よろしく願いいたします。今年度、国際ロータリー第 2790 地区、RLI 推進委員会運営方針ということで、どうのように RLI 推進委員会が考えているかということ、まず、皆さんにお伝えしていきたいと思っています。まずですね、RLI 推進委員会が掲げる今後のありたい姿についてということで、第 2790 地区で、RLI を開始して以来 10 年が過ぎまして、次の 10 年に向けて、新しいステージを目指して、いこうと、いこうと、今年度は、非常に新しい取組みをしていこうということで、やっています。実はですね来年度は、パート I シリーズが、9 月から始まるということで、今まで、2 月 3 月 4 月というような、形で行われていたのですが、来年度はですね、9 月 10 月 11 月で、一応考えています。よろしく願いいたします。次に、今後の RLI の目的ということで、「質の高いリーダーシップ教育によってクラブをより強いものにしていこう」ということを追求していきます。これはですね、いろんなクラブのですね、ロータリーの方がいらっしゃいまして、その方と、コミュニケーションを取ることによって、自分のクラブにそれを、持ち帰って、良いものは、自分のクラブで、是非採用してもらって、クラブというのは、非常に仲の良いコミュニケーションのある、強いクラブしていただけるかなというふうに、思っております。次に、RLI 日本支部の会則ということで、RLI 日本支部地区代表委員は、当該年度の地区ガバナーにより任命され、任期は 1 年とする。ということが、書いてあります。ただし、留任はこれを妨げない。ということで、こちらのほうは、今、梶原さんが、RLI の地区代表委員に、なってます。今後も、続けてもらうという形になっております。次に RLI は、RI の基本プログラムではないが、一つ目に、会長エレクト研修セミナー 二つ目に、地区チーム研修セミナー 三つ目に地区研修協議会との関連性を持った活動として、今後は定着させていくということで、こちらのほうも、協議会、セミナーなど、常に連動していくような、そういう RLI の、委員会でありたいということで、掲げてあります。次に、RLI 活動について今後の課題ということで、こちらのほうは、クラブ毎、RLI に対する認識についてということで、今、RLI の普及活動というのは、非常に多くやられています。昨年度はですね、千葉みなと RC、今日、港のヨーコさん。ですとか、マイケル鈴木さん。がですね、千葉港 RC で、初めて参加して頂いて、残り 11 クラブ、今、なっております。これはですね、今年度ですね、11 クラブというのを、全部のクラブに普及させていきたいなと、考えております。続きましては、実行委員会の組織運営の充実ということで、地区における実行委員会の位置づけというのを、考えております。こちらのほうはですね、実行委員会、こちらのほうは、皆さんファシリ



テーターの資格を取って頂いて、こちらのほうに参加して頂いてですね、是非、実行委員会に所属してもらって、ファシリテーターとして活動して頂ければなあと、いう風に思っております。次に、DL 資格のスキルアップということで、DL スキルアップ研修のあり方。こちらのほうはですね、今年度、ガイドブックというのが、新しくできまして、これに沿ってブラッシュアップの 1 2 3、というのを、進めていきたいなというふうに、思っています。是非、参加する際は、こちらの新しいテキストを、必ず読んで、参加して頂ければなと、いうふうに思っています。続きまして、参加者、DL 情報データの管理の在り方。ということで、今年度は、池田さんのところなんですけど、リマインドとして、江上さんに、千葉東 RC の江上さんにも指摘されたのですが、直前に、リマインドというのを、昨年ちょっとあったんですけど、今年は、そのところが抜けてしまったので、今後は、そういう細かい部分ですね、是非、すすめていきたいなと思います。今年度、初めてだったので、今回はわからなかったもので、よろしくをお願いします。次に、RLI プログラム、に際して、ガバナー事務所との連携の強化。ということで、こちらのほうは、ガバナー事務所と、連動して、今後やっていくという形になります。次に、オンライン RLI 対応に、向けて。ということで、昨年度はですね、DL の養成コースをオンラインで、受けられた方、いらっしゃいますか？はい。ゲイビ・アデルさんが、受けられたということで、対面でやると、どうしても、館山ですとか、野田とか、流山、こちらのほうの人、なかなか、参加しづらい部分がありますんで、これをうまくオンラインの養成コースというの、遠い地域の人でも、参加できるような、そういうような、RLI の活動をしていきたいなと、考えております。

今年度の RLI の実行委員会の運営方針なんですけど、テーマは、「楽しく充実した実行委員会の組織運営を目指し、各 DL のファシリテーションスキルを向上させる」ここの DL というのは、今年度から、FT に変わりましたので、訂正させていただきます。こちらのほう、実行委員会のほう、皆さん休みのときに、暇をとって集まって頂いていますので、基本的には、会のメンバーとなって、その後の懇親会として、反省会も再度、そこで討論してもらおうというような、コミュニケーションと、懇親を深めるというような、活動テーマに今年度、していきたいなと思っております。

活動計画として、セッションリーダー・サブリーダーへの円滑な情報提供とコミュニケーション。ということで、このブラッシュアップ 1 2 3 を終わりますと、おそらく 11 月 12 月 1 月というのは、空白の期間になるのですが、ここでセッションリーダーとサブリーダーのミーティングを定期的に行って、来年の 2 月の、パート I シリーズ、以降に向けての準備をしていく。という形をとろうと思っております。2 番目。セッションチームメンバー間のコミュニケーションと、交流促進。懇親の場を提供。さきほど言った、懇親の場を設けていきたいと思っております。三つ目に、ブラッシュアップ研修会において、RLI ファシリテーターガイドブックを有効に使い、学びを深めるということで、今日、皆さんのところにある、ガイドブックを使って、いろいろと、今日もあとで、周

藤副委員長のほうからですね、講義をお聞きになって、それをどういうふうに、今後につなげていくか。ということ、練習してもらおうと。こういうような繰り返しを、していく。形をとろうと考えてます。次に、新テキスト。カリキュラム変更への対応。ということで、テキストは去年から、変わったわけなんです、一応、昨年度は、いろいろと、皆さん、やりにくいセッションとか、周りとのコミュニケーションが、なかなか取れない講義というのが、たぶんあるかと思うのですが、これをうまく、円滑にすすめるように、カリキュラム、というのを、多用していきたいなど、考えています。

次に、セッションリムのリーダー・サブリーダーということで、本年度の、チームリーダー・サブリーダーの編成を私のほうで、しました。一応ですね、今から名前を呼ばれたかたはですね、前のほうに是非、出てきていただきたいなど、思っています。

A チーム チームリーダー 坂下 雅紀 (千葉東 RC) サブリーダー 手塚 隆雄 (千葉東 RC)
B チーム チームリーダー 山本 衛 (松戸西 RC) サブリーダー 大野 雅章 (千葉 RC)
C チーム チームリーダー 松岡 邦佳 (木更津東 RC) サブリーダー 佟 雪蓮 (白井 RC)
D チーム チームリーダー 長井 弘亘 (市川南 RC) サブリーダー 東 孝俊 (千葉 RC)
E チーム チームリーダー 清田 浩義 (千葉 RC) サブリーダー 櫻井 宇人 (千葉 RC)
F チーム チームリーダー 周藤 行則 (浦安 RC) サブリーダー 小久保 和子 (八街 RC)

A チーム チームリーダー 坂下 雅紀 (千葉東 RC)

始めまして、千葉東 RC の坂下と申します。青木さんから、お電話頂いて、嫌だとは、言えなかったのですが、「はい」と、返事をさせていただきまして、サブリーダーと共に、千葉東 RC で、がんばっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

B チーム チームリーダー 山本 衛 (松戸西 RC)

松戸西 RC の山本と申します。よろしくお願いいたします。今期は、ファシリテーターガイドブックが出来ましたので、それに沿って、少し楽ができるかなと。そのように思っております。今年もよろしくお願いいたします。

C チーム チームリーダー 松岡 邦佳 (木更津東 RC)

松岡です。昨年デビューしたばかりなので、何度も、嫌だと言ったのですが、(会場 笑) 元来が、「やれと言われたら、やる。」と、決めておりましたので、最後は、仕方なく、受けました。いろいろ、ベテランに比べて、足りない部分が多々ありますけれども、若さで、がんばりたいと思いますので。若さが通りますので。(会場 大笑) 若さで。たぶん、このなかで、一番若い。?? たぶん若いので。C チームが一番若そうなので、がんばりたい。若さを活かしてがんばりますので、よろしくお願いいたします。

D チーム チームリーダー 長井 弘亘 (市川南 RC)

はい。こんにちは。第1グループ市川南 RC の長井と申します。私も、この RLI というもの、ロータリーというもの、力になるということと、多くの方々と出会えるということが素晴らしい。そして、テーマによってですね、悩みはまちまちな

のですが、今回は、ファシリテーターガイドブックで、骨子、やっぱり、ファシリテーターとして、
どういった姿勢をガンガンとやるということですね、今後の第 2790 地区 w 中心に回っていくと、と
ても素晴らしいロータリー活動になると思います。皆さん、今後とも、よろしくお願い致します。

E チーム チームリーダー 清田 浩義 (千葉 RC)

改めて、E チームのセッションリーダーをさせていただきます。今回の実行委員長は青木さんになって頂い
てですね、本当につくづく思いますけれども、やはり、けっこう RLI って、大変だといろいろあると
思うのですが、やっぱり面白くないと、参加したくないなど、というふうに、たぶん、私も、そう思
っているので、是非、楽しい、実行委員会にしたいと思います。お手伝いしたいと思います。よろし
くお願いいたします。

F チーム チームリーダー 周藤 行則 (浦安 RC)

改めまして、どうも。周藤です。F チームのセッションリーダーをお受けしたのですが、サブリーダー
の小久保さんがいるので、私は、安心してます。(会場 笑) おそらく、小久保さんのほうから、新鮮
な切り口で、どんどんこう、私をリードしていただけると。いうふうに、すごく、心が楽で、ございます。
どんどん、どんどん、セッションが、盛り上がるような、形で、うまく回せたら、良いなど、思っ
ております。よろしくお願い致します。

RLI 実行委員長 青木洋明 (千葉北 RC)

本年度は、このセッションリーダー達でいきたいと、思います。皆さん、よろしくお願い致します。

今年度、こちらのチーム編成をしたわけですが、実は来年度、パート I シリーズが、9 月から開始す
るということで、できれば、引き続き、このチーム編成で、今年度と、来年度を一緒にいきたいなど、
というふうに、考えてます。なかの部分の多少、入れ替わりがあるかもしれませんが、一応ですね、
来年度は、もう、急にいきなり、9 月から、始まりますんで、是非、協力していただければなあと、思
います。

最後に、今年度の日程表ということで、

2023 年	9 月 3 日 (日)	RLI ブラッシュアップ研修会 1	13 時 15 分～17 時	千葉市民会館
2023 年	10 月 7 日 (土)	RLI ブラッシュアップ研修会 2	13 時 15 分～17 時	千葉市民会館
2023 年	11 月 4 日 (土)	RLI ブラッシュアップ研修会 3	13 時 15 分～17 時	千葉市民会館
2024 年	2 月 10 日 (土)	RLI パート I	9 時 10 分～17 時	千葉市民会館
2024 年	3 月 9 日 (土)	RLI パート II	9 時 10 分～17 時	千葉市民会館
2024 年	4 月 6 日 (土)	RLI パート III	9 時 10 分～17 時	千葉市民会館
2024 年	5 月 11 日 (土)	卒後コース	13 時 15 分～17 時	千葉市民会館
2024 年	6 月 8 日 (土)	FT 養成コース	13 時 15 分～17 時	千葉市民会館

この後、ブラッシュアップ研修会 3 回とも、懇親会をやろうと思っておりますので、参加頂けるように、

よろしくお願ひいたします。

店は違う店をチョイスしますので、楽しみしてください。

時間になりましたので、私の方のセッション、これで終わりにします。是非、楽しんで学んで帰って頂ければなと、思います。今日はありがとうございました。



アイスブレイク RLI 推進委員長 清田 浩義 (千葉 RC)

それでは 20 分くらいアイスブレイクタイムということで、今年度の実行委員会のチームリーダー・サブリーダーに前に出てきて頂きました。実はですね、今回 29 名の方に御参加頂いてですね、名簿を見て頂いたときに、お感じになった方もいるかもしれないのですが、今回御参加頂いて、この後、一番の DL の、歴史の長い、海寶さんが、第 1 期。海寶さんが DL の皮切りです。諸岡さんが、第 3 期。それで、櫻井さんが、第 4 期ぐらい。私（清田）が第 5 期。それで、そこまでが、伝説の人です。（会場 笑）それ以外はですね、今回、お集まりで、第 13 期の方が 5 人、マイケル鈴木さんを筆頭に、5 人いらっしゃってます。第 12 期の方が、人数的にいうと一番多くて、坂下さんを筆頭に、矢野さんを筆頭に、8 人いらっしゃって、第 11 期が、3 人。第 10 期が 3 人、第 9 期が 3 人。そんな構成です。第 9 期の方は、櫻井宇人さん。あの方の世代はですね、「俺たちはプラチナ世代」だとか、卒後コースのときに、飲んでて、豪語していた世代であります。今回第 13 期、第 12 期、第 11 期は、ちょっとコロナで、たぶんパートシリーズ、オンラインの参加もあってですね、なかなか参加頂いた皆さん、そしてディスカッションする DL の我々も、オンラインのなかのコミュニケーションって、すごく難しいなあと思いながら、3 年を過ごしていきました。そんななかで、卒業されて DL として、旅立ちされた皆さんが、こんなにいるという、非常に心強いと思っています。僕は、青木さんに実行委員長になって頂きましたけれども、キャリアというのは、どれだかファシリテーション的な、コミュニケーションの場を持ったか？ということなんだろうと、思います。ですから、DL になって、まだ 1 年目だからといって、ファシリテーションスキルが低いということは、決してないと、思います。誰とは言いませんが、結構この人、ファシリテーションの先生になったほうが、いいんじゃないかという感じの人が、正直います。だかれらそれはですね、デビューだから。確かにロータリーのなかでは、ということでは、ロータリーの経験がということが、もしかしたらそうかもしれませぬけれども、ファシリテーションとって、あとで周藤さんからもいろいろなお話を、頂きますけれども、基本的には、コミュニケーションであるので、コミュニケーションがどうできるか。という話ですよね。私なんかが一番難しいのが、わが家に返ったときに、奥様とのコミュニケーションなんです、（会場 大笑）だいたい、この会話のときはですね、DL になって、どう変わりました？と言ったら、家に返ったときに、6 分会話がかかりました。というような、お話をされる方がいると思いますけれども、是非、そういう意味で、今回ガイドブックができたので、皆、同じスタンスで、同じ

ところから勉強し合おう。そんなふうに、思っています。ちょっと私は、20分になるのですが、みなさんと、頁でいうと、5頁、6頁、7頁、こんへんのお話を、一緒にしたいと思しますので、テキストご覧いただきながら、お話聞いて頂ければと思います。アイスブレイクということなので、皆さんのセッションを始めたときに、そのセッションがスタートしたときに、なんとなく気持ちが、落ち着いて、なんとなく、安心して話しができるという場をつくれるか。なんとなく、お互いに緊張し合うんですね。何から話し合っているのかな。というふうに、思う様に、そんな場面も、別にRLIのセッションだけでなく、初対面のどなたかに会ったときに、うまく会話が、コミュニケーションがすすむ方と。それから、どうも、なんとなく、人見知り、しちゃって、会話ができない。一緒にやっていると沢山あると思います。そのことを考えると、やはりアイスブレイクタイムって、今、アイスブレイクになっているかどうか、わかりませんが、そういうのも大事だなというふうに、思いながら、思うところです。

それで是非、皆さんに、今回、ちょうど5頁、下の方に、本書の目的、何を狙っているのか。ということで、3つ書いてあります。RLIは、あらゆる参加者にとってより有意義な学びの場になりうる。このRLIは、何を狙っているのか。ようするに有意義な、学びの場になったか？という話です。たぶん、私も沢山経験ありますけれども、ディスカッションリーダーによってですね、ファシリテーターによって、なんとなくその、セッション、は、どうもうまくいかなかった。というセッションもあれば、そのセッションに出たことで、新たな気づきがあったぞ。というような、事もあったかなと思います。今、RLI、あらゆる参加者にとって、有意義な学びの場ができるかどうか。ということはですね、ちょっと自分自身もプレッシャーになるかもしれませんが、とりもなおさず、ファシリテーターを、どういうふうに、ファシリテーションできるかによって、有意義な学びの場と感じられるかどうか。という風になってくるんだらうと思います。有意義なRLIのために、RLIファシリテーターの考え方、判断、行動が、極めて重要である。確かに、今、お話したように、ファシリテーターによって、その場の雰囲気が変わってしまうといえば、ファシリテーターの考え方、判断、行動が、極めて重要だということが、わかります。そして、RLIファシリテーターとしての考え方、判断、行動は、実践と省察（振り返り）を繰り返すことによって、習熟可能である。ここはとても大事な話で、ある程度繰り返さないと駄目だということですよね。私も、諸岡さんの推進委員長のときの、6年前ですから、そこからやってですね、上手くできたときもあれば、上手くできないときもあるし、ほぼ上手くできない、できなく終わっているというのが、実態です。ですけど、どういうわけか、繰り返ししているうちに、自分のなかでも、少しずつ変わってきたなど、というところもあるかもしれません。ということで、ここに御参加された方も、この罅罅に入ってしまうと。こういう繰り返しをしないと、上手くならないということは、繰り返さないとならない。繰り返さねばならないということは、やめられない。というふうに、青木実行委員長が申しておりました。ということで、次の頁開いていただきましょう。以上3点の理解を目的とした本書は、読みこなし、使いこなすうちに、皆さんに次のような状態になっていただくことを目指しています。冒頭お話したような三つの目的を目指して、そしてファシリテーターの考え方を繰り返しているうちに皆さんに次のような状態になっていただくことを、目指しています。

- ①ファシリテーションとはなにか。何故必要かが、わかる。
- ②ファシリテーションを実践したい。磨きたい。磨けるはずだと思える。
- ③RLIに向けて具体的にどう準備し、実践をしていけば良いかわかる。

今日、皆さん是非ですね、私からお伝えしたいところは、この5頁6頁のところですよ。この本が、何を目指していて、そしてどういう状態になることを、期待しているか。という話です。先程も、お話ししたように、推進委員会でこの本、ファシリテーターハンドブック、ガイドブックをまさにバイブルにしようというふうに、たまたま富永さんという方のお話を、是非、うまく機会があれば、富永さんにお話を、皆さんに、聞いて頂きたいというふうに、思うようになる方なのですが、その方のお話を聴いたり、一緒にファシリテーションの輪にはいらさせて頂くと、また、吸い込まれて、しまうような、話しができました。ですので、是非、皆さん、今日は、このテキストが、1500円ですが、無料で(会場 笑)させていただきました。よろしく願いいたします。私を作ったわけではないですから。そして、テキストをパラパラと。あとで周藤さんのほうからですね、第1章のところ、ファシリテーションとは、何か。そして、ファシリテーターの考え方。というようなところを、今日、これから周藤さんにお話をいただきます。そして、その話を受けて、ですね、その後、演習と振り返る。皆さんと、話し合いの時間を設けてあります。この本を基に、是非、お帰りになって、読んで頂きたいと思えます。本来、ファシリテーションは何なんだろうか。ファシリテーターとして、自分がどのように、どうやったら良いのか。というようなことを、我々が自分で、自分でイメージを作れるかどうか。ということ、とても大事です。そのためにはですね、その後の、グループセッションで、周藤さんの話をどのように感じたのか。ということ、皆さんで是非、話し合いながら、ここにも書いてありますが、やっぱり繰り返し、繰り返し、振り返るということが、とても、大事だなというふうに思えます。はい。それで、今テキスト見て頂くと、第1章のファシリテーションの基本。基礎。ということで、今日、お話を頂きます。そして、次回、ファシリテーション第2回は、ブラッシュアップ研修会ときには、青木実行委員長のほうから、この第3章に、頁でいうと、53頁になりますが、RLI参加者テキストを、どう読み説くか。皆様のDLの経験のある方は、それぞれDLとしてテーマを与えられて、そのテーマをどういうふうに、セッションのなかで、すすめていこうかと。ということ、考えるときに、参加者テキストを見て、テキストに書いてある、設問を、そのまま問いかける。ということ、で、済まされたことが、案外あるかもしれませんけれども。ここはですね、テキストをどう、読み解くか。結構細かく、いろんな事例を交えて、書いてあります。これから皆さんが、ファシリテーターとして、パートシリーズを、過ごしていくときに、とても参考になるのが第3章というふうに、思えます。第3章については、青木さんのほうから、次回、お話を頂く、そんなつもりで予定しております。そして第4章は、オンラインRLI、ちょうどこのコロナの3年間。やっぱりZOOMがなかったら、どうなっていたのか。というふうに、すごく思いますけれども。いろんなことですね、オンラインをうまく使いこなす。たぶん、皆さんお仕事のなかで、オンラインをうまく、我々もそうですが、必要に迫られて、かもしれませんけれども、使う事になったけれども、使ってみて、その使い勝手、様々なご経験、おありだと思いますが、オンラインRLIの進め方、ということが、書いてあります。で、5章が、各地区でのRLIファシリテーター養成研修の進め方ということで、より実際は、このRLI推進委員会、実行委員会が、DLをするときに参考になるような、事例がここに、含まれていて、そんなふうにと、本当に、良いタイミングで、出来たテキストだなど、いうふうに思っておりますので、是非、お帰りになったら、読んでいただければなあと思えます。そろそろ時間になりました。私のほうからはですね、お話ししたように、新たにこれから、ファシリテーター仲間ということですので、楽しいファシリテーション、そして、何回も何回も繰り返しながら、自分で、学びを深めていけるような、ファシリテーターとして、皆さんと一緒に、がんばっていきたいというふうに思っています。では、是非、これからも、よろしく願い致します。どうもありがとうございました。



ファシリテーションとは何か？なぜ必要か？

RLI 推進委員会副委員長 周藤 行則（浦安 RC）

皆さん、改めまして、こんにちは。さっき、清田推進委員長が仰ったことが全てで、私もあまり、言うことがないかと、思ったんですが、とりあえずパワーポイントを作ってきましたので、(会場 笑)それを、皆さん方に。ここに立つと、私、皆さんの目の、人数×2倍、見つめる視線が、キツインですよ。もともと私、人見知りなものですから、あまり、人前でしゃべるのが、得意ではなかったのですが、やっぱり慣れというのは、恐ろしいもので、この場でも、安心をして、お話が、できるようには、なっております。例えばですね、誰にしようかな。千葉港マイケルさん。ちょっと立ってください。皆さん、マイケルさんを集中して見てください。いい男ですね。あの一。どうですか。視線が集まってくるというイメージ。RLI 推進委員の人はもっと人数少ないんですがね。でも、皆さんの視線が、ずっと集まるということは、ちょっと、ファシリテーターをやるときも、若干不安になったりもします。ありがとうございます。今年からですね、DL という呼称から FT という呼称に変更になりました。私、私も RLI 日本支部の総会に今年 8 月、初めて参加致しまして、目からウロコでした。去年は、ちょっと用事があった、なかなか、参加できなかったものですから、今回、初参加で、富永先生の、発表を聞いたときに、「あー。ファシリテーターというのは、こういうものなんだ。」ということが、わかったので、清田さんに、「すごいですね。いやー、刺激でした。」と、言ったら、「じゃあ今度発表してね。」と言われて、(会場 笑)「エー。」感動はしたけど、発表するの？ みたいなことになって、そういうことで、大急ぎで、データーを作ってみたところです。

●今日、お話しする内容なんですが、

- ①ファシリテーションは何を目指すのか？RLI との関係
- ②ファシリテーションの基本的な考え方、技術
- ③ファシリテーションのケーススタディー
- ④ RLI におけるファシリテーションの準備と即興
- ⑤ファシリテーターとしての「あり方」とそれを支える「マインド」
- ⑥ファシリテーターとしての成長

こういったところを、お話をさせていただきます。私も、ファシリテーター、まだまだ、ジャーニーをしているところでございますので、毎回、失敗をすると、「あー。あそこ失敗をしたな。」と、思いながらいきますので、時間通り、できなかったら、今日の成果はそこまで。ということで、ご了解ください。言いたいことは、全部、このガイドブックに書いてあります。ガイドブックをテキストの第 3 章だけ読むという事ではなくて、第 1 章からなめるように、読んで頂

くと、すごく理解できるような構成になっておりますので、今日、私が話したことは、私の感想として聞いて頂き、そこから後はですね、ご自身で、ガイドブックを「よく」最初から目を通して頂くと、すごくよく理解できると思います。まずですね、ファシリテーションの何を指すのか。RLI との関係。ということなのですが、今のこの世相といいますか、これを「VUCA」(ブーカ) というそうなのですが、

「VUCA」というのは、英語の頭文字、V・U・C・A この4文字を、集めて「VUCA」(ブーカ) というそうなのですが、

Vは、ボラティリティ volatility 移動、移動線、変わりやすい変動制、

Uは、アンサーティン uncertainty 不確実性

Cが、コンペティシィ complexity 複雑性ですかね。変わりやすいということですかね。そして

Aが アンビグティ Ambiguity 曖昧性 変化しやすいというか、はっきりしない。

こういう世相であって、人口増加が、人口爆発があるところもあれば、日本みたいに、人口減少が起きたり、急にロシアがウクライナに戦争を仕掛けてみたり、経済が日本のように、円安傾向で、経済的にも、どんなかな。と、こういうような時代、VUCA、というそうなんです。こういう時代であると、なかなかいままでの先輩、あるいは長老のままの過去の話を聞きして、そのとおりにやっているだけでは、現状打破は、ちょっと難しいのではないかと。というような、具合になっているんだ。というふうに考えられているんだ。教育の世界でも、文部科学省のほうが、先程清田さんがおっしゃったように、今の授業のスタイルから、先生が、お話をして覚えなさい。それで教えて、というスタイルは、現在の学習としては、ちょっと足りないんじゃないか。だから、日本の子供たちの学習能力が落ちてきているのではないかと。ということで、こちらも、学ぶから、探求する。ということにシフトしているそうです。そういうなかで、先生たちは、180度変わったので、てんやわんやという状態なんですけど、RLIのほうも、同じ時期に、同じような考えでいる。学ぶよりは、いろいろ試行錯誤して、そのなかから、結論を出していきたい。いうふうに、同じように、考えている。そのなかで、ファシリテーターというのは、どういうものかという、

一人二人の偉い人の話しを、「こうだよ」というんではない。

三者三様の方が、集まって、話をするなかから、新しい考えを導き出すような人。ということらしいんです。

実際に日本のことわざで、「三人寄れば文殊の知恵」という言葉があるんですが、

三人寄っても、文殊の知恵が本当に出るかどうかが。

三人寄ったら、三者三様で喧嘩が始まったり、「俺の意見を聞け。」というような話で、だいたいまとまる事はない。

だから、この三人寄って、文殊の知恵になるように、導き出す人が、ファシリテーターなんだと。

というふうな、解釈でした。

この四角にも書いてありますけれども、なにかを、ファシリテーターが教えるのではなくて、多種多様な、多彩な参加者が集まって、答えを、生み出す場所を提供するのが、ファシリテーター。だから、なんにも自分が、専門的に知っていなくても良いんだ。という事ですね。話し合いの場にする。話し合いということで、「合い」が、大事で、「合い」愛は、LOVEで、良いですよ。(会場 笑) どうしてもね、自分の話しだけをすると、一方通行になってしまうので、話し合いにはならないですよ。RLIの場で望まれていることは、話しを、自分の意見をガンガン、ガンガン、主張することではなくて、

私が話をする、他の人も話をする、皆さんが、話しをする。これが、話し「合い」ですから。やっぱり話し合いが、大事だから。そういう場を提供するのが、ファシリテーターであります。

●ファシリテーターの基本的な考え方と技術。

ファシリテーションがすごく難しく、経験が要りますけれども、これを簡単に、シンプルに考えると、結論が大事なんじゃないです。

ファシリテーションするとき、結論が大事なんじゃなくて、この8つの要点が大事なんです。

というふうに、富永先生はおっしゃってます。

安心・充足・共有・関係

段階・焦点・期待・刺激

この8つを提供することで、ファシリテーションが、盛り上がると。いう考えのようです。

一つ話ずつをしていきます。

1. 安心

安心できる場所を作ることが大事で、これが安心感になります。参加者に発言しても否定されない安心感をもってもらう。これが、まず、一番大事。核心の問いをする前に、皆が安心してもらわないと、本音で話ができなくなります。私も緊張して、ファシリテーターになって緊張して、ガチガチで、「ロータリーは、」と言ったときに、みんな、答えてくれないと思うんです。この人が緊張していると、緊張している人もいるし、「なんか怖い。」すごくまじめな人が真面目なことを、答えてほしい。というふうに、思うかもしれません。ですから、そうじゃないよ。自分はクラブに打ち解けて、話しをする。

坂下さん。「今日は、朝飯なんでした？」

坂下 雅紀（千葉東 RC）

俺？ 納豆。

納豆。うーん。（他の人に）何でした？

他の人

調理パンでした。

調理パン。ゲイビさん。朝は、何でした？

ゲイビ・アデル（柏西 RC）

夕べのごはんでした。

夕べのご飯は、なんだったんですか。

ゲイビ・アデル（柏西 RC）

野菜炒めのようなものでした。

おいしそうですね。ちゃんと、こんな具合に、会話のできる状態に、まず、作ってから、会話を始める。というのが、とても大事であると。後にも話しますけれども、共通の話題があれば、皆さんが、引き込まれて話ができるように、なる。緊張していると、話してもできないし、自分の心も緊張していると、口が開かない。あるいは、皆さんは優秀な方達だから、逆に、話が多くなってしまいます。ペロペロペロっと。逆に有能な人たちは、緊張すると、話しが多くなる。こういうような傾向があるそうで、できるだけ安心した場をつくる。というのが、大事ですね。それから

2. 充足

参加者が充足する。満ち足りた気分になる。で、そうなるときには、私たちファシリテーターは、常に、発言されることに、耳を傾けて、「うむ。」「なふほど。」「はい。」「そうですね。」という、ちゃんと、発言に、聞き入っている姿勢を、お見せすると。そして、「発言して下さいどうも、ありがとう。」こういうような、対応をする。そうすることによって、参加者の方も、「私の意見を、聞いてもらえた。大丈夫かなと思ったのだけど、こんなこと言っているのかな。と、思ったんだけど、言ったら、聞いてもらえた。」そうすると、一歩引き込まれてですね、じゃあ、次に、また何か聞かれたときは、なんて答えようかな。というふうに、前のめりになってくださいます。「何を言っているの。あなた。この場で、そんなこと言って、あなたロータリアンなのか！」みたいな、当然ありえませんが、そういうような態度をすると、皆、硬くなってですね、ロータリーは、ロータリー章典の何か。という、全然知らないし、また違っていたら、怒られるかもしれない。みんなすくんでしまいますから、「どんな事でもいいですよ。」みたいな、話しかけをする。一番最初にも言いましたように、多彩で多様な方の集まりですから、それから、ラーニングではなく、トレーニングとなっていますから、ある程度の、試行錯誤は、やったほうが良い。でその、「自分が、間違っているかな？」という意見のなかに、何か新しいものが、見いだせるためにも、参加者が、充足してもらって、話しをどんどんしてもらおうような環境を作るのが、大事だと思います。

3. 共有

話し合いの目的。向き合うべき問い、話し合いの方法をわかりやすく共有する。目的とか、テーマとかテキストブックに書いてあるのですが、今日のテーマはこうです。というふうに、言ったときに、それを正しく理解していただけるかどうか。その問いだけでは、もしかしたら、みんなが戸惑う、かもしれない。そういったときに、そこに自分で、その問いを、目的、テーマを、自分のなかえ考えて、自分の腹に落として、そして、噛みくだいて、お話を皆さんに、「こういうこと、しますよ。」というふうに言うと、理解していただけるでしょう。例えば、職業奉仕、あっ、ごめんなさい。リーダーシップのなかで、「リーダーシップって何ですか？」という問いが、テキストブックにあって、すごく引っ張っていくような人とか、行動力のある人とか、協調型とか、やり取りをするとか、いろんなタイプがありますが、という、ふうに、言うと、「うーん。」話しとして、なんかな。と、思うかもしれない。そのときに、これ、第3章に書いてあるところから、抜いたりしてますからね。あとで見てもらうと

わかるのですが、「ビジネスとロータリーのリーダーシップって、共通点が多いですけども。」という、「ああ、そういうことね。」ちょっと質問の中身が、ある程度、理解できたりする。で、そのなかで、「どんな共通点があると思います。」と、聞くことで、参加者は、安心して、積極的な話し合いに参加できるかなど。進むべき方向性の指示。実行する。推進役、協調性、みたいなことを、言ってくだされば、ありがたいですね。

4. 関係

それから、参加者が、自分に関係あると思う質問。をすると。抽象的なことを、言っても、なかなか、理解ができにくいですね。最初から、抽象的な事を言っても、わからないから、その自分に関係のある質問であれば、安心できるのではないかなど。そこから、ぐいぐいと入っていくと。というようなことですかね。例えば、「青木さん、青木さん、お仕事何でしたっけ？」

青木 洋明（千葉北 RC）

損害保険の代理店です。

お仕事って、人と会う事が多いですね？保険を、勧めるとき、どんなかんで、勧めていらっしゃいます？

青木 洋明（千葉北 RC）

何か、困ったことがないかと、聞きます。

こんなような形から、どんどん入って行って、じゃあ、仕事を聞いた、「職業奉仕に関しては、どうなんでしょうね？」とか、いうふうに、話を、繋げていけば、自分の仕事から、会話をして、そこから、ロータリーの職業奉仕は、どうゆうことで、ということ、どんどん話しが進められるのかなど。そういうふうには、参加者の方も、皆さん自分の、事として、考えてくださるんじゃないかと。というような、話ですね。

5. 段階

段階を追って思考を高める。抽象的な問いは、具体的な問いに分割し、段階的に問いかけていく事で自然な思考の変化を促す。

ここは、私が適当に書いたのですが、倫理と職業奉仕で、例えば、「あなたの仕事は何ですか？」と聞いて、で、「あなたが、職業上、大切にしていることは、何ですか？」さらに自分の職業の上で、職業奉仕のことを、ちょっと考えて頂き、そして、4つのテスト、真実かどうか？みんなに公平か？好意と友情を深めるか？みんなのためになるかどうか？というのは、

あなたの今のお仕事と、どうゆうふうに、接点がありますかね？みたいな形で、いった場合に、その4つのテストと、自分の職業と、なかの重なるところは、みんな考えて、くださる。これを、ただポンと、職業奉仕はとか、4つのテストから、考えらえるものは、何ですか？という、質問が広すぎちゃって、なかなかわからないので、そこを、ピンポイントで質問を狭めて、答えてくださるような、質問に変

えると。そういったことを、いろいろ聞いたうえで、「じゃあ、あなたの今の、職業で、職業奉仕として、できそうな、アイデアを教えてください。」といえば、皆さん自分の職業からできることを、なんだろうな。というように、考えて頂けるんじゃないかなと。ということで、この段階を追って、質問を含めて、思考を高めていって頂くような、形をとる。

6. 焦点

あとは、焦点がぶれないように。いろいろ話が、今度は、打ち解けて、盛り上がってきたときに、どうもみんなが、その話に夢中になってしまって、RLIの本来の目的から、どんどん外れていってしまう。多少のはずれは、多様で多彩な人の集まりで、新しい意見を出すということで、そこから何か発見があるから。と考えれば、十分に受け入れてもらえると思うのですが、その後のレベルの話だけが、エンドレスに、いった場合には、「もうちょっと深く話をしたのだけど。」そこで話が止まってしまう。そういったときに、ファシリテーターは、毎回、話が、非常に盛り上がってますけれども、もう一度、そこについて、こういう質問をしますよ。ということで、流れを、もうちょっと、高度になるように、もっていくと。これ、私、できないんですけどね。難しくて。でも、焦点がぶれないように、話しをするということが、大事だそうです。

7. 期待

そして、参加者に期待する。

他にもない、あなたの意見をお聞かせください。どうしても、ファシリテーターになると、ですね、自分がどうにか、しなくてはいけない。なんとか、まとめあげなければ、いけない。という不安からですね、どうしたら良いだろう。前もって準備するのが、不安になったりしますけど。その思いは、スパッと、捨てる。捨てると言って捨てられるものではないのですが。そうじゃなくて、参加者の方に期待する。不安を自分が溜め込んで、ファシリテーターが不安になって、うまく、いくだろうか。時間内で、ちゃんとやれるだろうか。そういう不安は全部、捨ててですね、参加者の方が、ちゃんとそういう場を提供すれば、いっぱいお話をくださって、話しは、いろんな方向にいて、それで何か、見いだせるだろう。こういう期待感をもって、その場に挑みます。

だから、「あなたは、どう思いますか？」

「あなた、どう思いますか？」

みんなの、模範的な答えじゃなくて、あなたは、どう思いますか？みたいな、そういうことが、許せるような、雰囲気をもって、

みんなの、考え、率直な考えをどんどんどんどん、出していくことで、何かヒントがあるかもしれません。

8. 刺激

脳細胞を刺激する。

これは、難しいですね。脳細胞。思い切った意見、新鮮な切り口からの意見を引き出す。これは、RLIの例えでは、ないですけども、例えば、象がいます。象は大きいですね。で、皆さん、象はどうですか？と聞いたら、

「象はでかいね。」

「象はでかいね。」

「でかいね。」

と、皆は言うかもしれません。

では、「象はでかいのだけれど、象のなかで、でかくないところ、ないですか？」

と、聞く。

「あっ。」と、考えてもらって、象はでかいというイメージ。から、そういえば、象の鼻は長くて、細く、じゃあ、象は細いですね。いやいや。象は、毛がない。ちょっとありますか。でも、犬よりは全然毛がない。象は毛が薄い。

あるいは、象はすごい声で泣く。

象は、草を食って、あんなに大きくなっている。切り口はいろいろありますね。だから、一面的に象はでかい。でかい動物だというんじゃなくて、それを、同じ具象、現象を、どこから見るかによって、みんな違ってくるので、そういうような意見を、ファシリテーターは引き出す必要があるんじゃないかと。

例えばですね、米山奨学金があります。

米山奨学金は、どうですかね。と言った場合に、非常に、良い制度なんですけど、古くなっていて、特に、奨学生の方が、裕福な方とか、ある特定の国に、偏ってしまっている。こういう話が、実際に私が過去のDLをやったときには、出てくるんです。そうすると収集がつかなくなるんですね。そうじゃないでしょう。と、言えないしなあ。みたいな。非常にね、悩んで、静察したときがあるんです。今、こういった思い切った、脳細胞を刺激するといった、ところ、あるいはほかにも、かかるかもしれませんが、そうゆうときに、「はい。」みんなが、そういうふうな意見が出たときに、皆さんの意見は、全く同じ部分がありますけど、AさんとBさんでは、同じ事をおっしゃっているけど、ちょっと違いがありますよね。その違いつて、なんででしょう？というふうに、議論をさらに、発展させるというか、

「違うところがある。」ということ、脳を刺激させる。一面では同じだけれど、「私は、これは、良い制度だと思う。」という人がいたり、「私はこの制度、日本特有のものだから、これを、どうにかして、さらに良いものにしたい。」こういう意見が出るんですよ。そこを拾い上げて、「じゃあ、これを、どうしますかね。？」という形にもっていく。そうすると、参加者のなかの、脳も刺激されてですね、ワンパターンのところから、「次に」話しをもっていけるかな。というふうに、思います。

●なぜ、話し合いがうまくいかないのか。

で、実際に、なぜ、話し合いがうまくいかないのか。

皆さん優秀だから、ファシリテーターになってときには、上手くいくと思うのですが、私はなかなかうまくいかない。「なんで、上手くいかないのだろうか？」というときに、一番は、発言が少ない。です。これは、脂汗がでます。「このセッションの間、俺は話続けるんだ。」とかですね。(会場 笑) 思うんですがね。なんで発言が少ないのか。メインの問題は、やはり、議題の理解不足ということが、あります。議題を自分が理解して、ファシリテーターが、自分が理解していないということもあるし、参加者の方が、議題が、ピンときていない。ということだってあります。その、議題を理解していないのは、ファシリテーターの場合に、どうしよう。

例えば、財団。

「話しをしなくてはいけないのに、時田さんの、前で、俺は、話しをして良いの？」

みたいな、すごくジレンマとか、感じたりします。でも、ファシリテーターというのは、一番詳しい人じゃなくて、良いんです。ファシリテーターはあくまでも、話しを進めていく係なので、これはもう、知らないことがあっても、話しは、できる。というふうに、解釈していただきたい。話し合いを深める。ファシリテーターの考えが大事です。

先程述べた、要点、

安心・充足・共有・関係

段階・焦点・期待・刺激

こういったことを、注意をして、配慮をして、いただくことで、ファシリテーション。かなり、うまくいけるのかなど。いうふうに、おっしゃっていました。

それから、

●ファシリテーションの基本的な考え方、技術 何故話し合いがうまくいかないのか。

特定の人、ときには、進行役の独壇場になる。

これも、ありますね。

独壇場になるのは、さっき申し上げたとおり、ファシリテーターの独壇場になることもありますし、

(編集注 講義の途中でしたが、終了時間となってしまいました。)

それから、参加者の方で、独壇場になる。これは、どうしてもね、人間ですから、「教えてあげたい。」

という、欲望が、

あります。

なにかを、持って帰って頂かないとと、いけないから、「教えてい」という部分があるんですが、

この、RLIのファシリテーターというのは、教える係ではないですね。

教えるのは、情報研修会であったり、理念研修会であったり、そういう学ぶ場所があります。

RLIというのは、思考を揺さぶる場なんですね。

ですから、この、他者に教えてあげたい欲求というのを、うまく、こなすことによって、

話しが、うまくまわるかなと。

三番目、意見がかみ合わない。

ちょっと前に申し上げたように、話しが、自分の考え、主張で、うまくいかないことが、ありますよね。

他者の意見に刺激を受けることに、無関心。意見を述べることだけに、充足。

●緊張して誰も発言しないとき。

これは、臆病さが、硬さの原因。

状況が不透明であると、人は、発言をしないですね。

ファシリテーターとしては人が知りたいだろうことを、

最初の段階でわかりやすく、明示してあげる。

質問を噛み砕いて、言う。これが大事であります。

それからファシリテーターも、リラックスしないとイケない。

緊張しすぎると、セッションの目的や、問いの説明が、ぎこちなくなりますからね。

例えばですね、「ロータリー財団を述べなさい。」

というと、知った人が、どんどんどんどん、話をします。

でも、これは、『話し合い』ではないですね。

RLIの場合は、そうではなく、ロータリー財団に関して、『みんなが話しをしてほしい。』ので、

質問の仕方も、「ロータリー財団を知っていますか？」というふうに言えば、

知っている人しか話さない。だから、例えば、「ロータリー財団で寄付したことがありますか？」

というふうに聞けば、これは、『ロータリー材団の問題』というよりは、『自分の問題』になるわけで、

「財団に寄付したかな？」「あー。あるある。」「寄付しました。」

あるいは、「いや。寄付したことないです。」とか、いろいろ意見がでますよね。

そういったところが、良いかなと。

●残り時間が足りない

あと、残り時間が足りない。もう、今の、私の状態。(編集注 講義の途中でしたが、終了時間となつてしまいました。)

(会場 大笑)

時間が足りません。(会場 大笑)

でもね、焦らないんです。私。何故か？

話し合いは、予定通り進まないんです。(会場 大笑)

ごめんなさい。自分の失敗を偉そうに、言っちゃって。

やっぱり、そこまで、分かち合えたところまでが、今日の成果。

というふうに、考えて頂いて、余裕をもって、セッションに臨んで頂ければ、良いと思います。

で、目的は、ゆったりと、落ち着いて、振り返り分かち合う時間を持てるほうが、時間通りすすめるよりも、

全然大事だと。ということで、ちょっと、申し訳ない。時間が過ぎてしまって、

ここで、私のセッションを終わります。どうもありがとうございました。(会場 拍手 拍手)

セッションチーム 1

3階特別会議室 2-1

リーダー 青木 洋明 (千葉北 RC)

坂下 雅紀 (千葉東 RC)・

手塚 隆雄 (千葉東 RC)

山本 衛 (松戸西 RC)

大野 雅章 (千葉 RC)

石引 美貴 (市川南 RC)

セッションチーム 2

3階特別会議室 2-2

リーダー 松岡 邦佳 (木更津東 RC)

佟 雪蓮 (白井 RC)

長井 弘亘 (市川南 RC)

江上 俊彦 (千葉東 RC)

矢野 憲治 (千葉中央 RC)

百瀬 隆行 (市川南 RC)

ゲイビ アデル (柏西 RC)

セッションチーム 3

4階第3会議室

リーダー 清田 浩義 (千葉 RC)

櫻井 宇人 (千葉 RC)

時田 清次 (市原中央 RC)

小林 信雄 (東金 RC)

山本 要子 (千葉港 RC)

櫛田 仁一 (柏西 RC)

矢代 秀明 (浦安ベイ RC)

セッションチーム 4

4階第4会議室

リーダー 神崎 誠 (成田 RC)

周藤 行則 (浦安 RC)

小久保 和子 (八街 RC)

諸岡 靖彦 (成田 RC)

海寶 勘一 (千葉西 RC)

西田 貴一郎 (千葉東 RC)

櫻井 守 (千葉 RC)



セッションの様子



閉講式

ご挨拶 第 2790 地区ガバナー 鶴沢 和広 (千葉若潮 RC)

皆さん、こんにちは。開会式に出られませんで、本当に申し訳ございませんでした。途中から私も、参加をさせて頂きまして、まず、地区の RLI 推進委員会の皆様、そして実行委員会の皆様、本当にお疲れ様で、ございました。また、ファシリテーターの皆さん、今日は有意義な一日だったと思います。本当にお疲れ様でした。先程私は、清田さんがファシリテーターを務められておまして、そちらの方に参加をさせて頂きましてですね、そこでも少し話しをさせて頂きまして、この地区の RLI をどんなふうに、一緒にもっていこうかと、どのように、方向性をつけていこうかと、時田さんと同じ部屋でしたので、そちらのほうも、考えを一緒に共有していきたいなど、また、パストガバナーでいらっしゃる諸岡さんにも、是非、いろんなところを、諮問委員会、諮問委員会で、それほどあれではないですけども、ただ、この RLI に対して、全ての方を、「賛成」と、いうことではないと、いう現実も、皆様には、お伝えをしてゆこうと。しかし、戦略計画委員会というのが、直前ガバナーが作っているんですが、そのなかでは、流れが、どんどん地区で推進をさせていかななくてはならないと、広めていかなければいけないと、そんな同じ認識を持っています。寒郡さん、明日から、多分、GETS (ガバナーエレクトトレーニングセミナー) で、お会いしましけれど、今日、今回は参加されていませんけれども、寒郡さんも同じ考えだろうと、そんなふうに私も、思っています。今日は「磨きをかける。」ということでですね、皆さんのファシリテーションの、スキルをアップするというので、今日はいろいろと学んで頂けたと、思うのですが、私が RLI の委員会に、この活動に私なりに求めていることがもうひとつあります。ファシリテーションの技術を上げて頂くことともう一つ、これからファシリテーターとして、これからどんどん、入会まもない人を集めてですね、彼ら、彼女らに、ですね、ロータリーに対する興味をもっていただくと。それが非常に大切な役目だろうと、そんなふうに思っています。いろんな会話を引き出して、そして、みんなの意見を交換させてですね、ロータリーに対する興味をもっていただくと。たぶん、そのディスカッションのなかではですね、たぶん、そこまで、深掘りできなくて、良いと思うんです。浅く、広く、しかしいかにロータリーに対する、興味を引っ張り出す。興味をもって頂く。そういうのに、ファシリテーター、ファシリテーションをして頂いてですね、参加した会員が、戻ったらすぐに、帰りの電車のなかでですね、このスマホのなかでですね、いろいろ引っ張りだして、誰がこんなことを言っている、実際は、こうなんだぞと。もっと深掘りするような、そして、自ら学んで、ロータリーに対する見識を深めていくと。そんなように、皆さんが持って行っていただけたらと。そのように思います。私は実は、10 期生らしいですけども、僕は恥かしながら、卒後コ



ースも、ブラッシュアップも出ていません。かろうじて、三回までは、一応は、卒業証書を頂いておりますが、未熟者でございます。ただ、このような、いろんなところでですね、ファシリテーターの方々を囲んでですね、いろんな話しを役柄、させて頂いております、意見を交換する。というところでは、だいぶ私も、やってきています。ですから、どのようなところでも自分の意見は、きちっと、述べる準備をしている。そのためには、やはり、私実は、それなりには、影で勉強しております、ですね、これは、こないだ初めて知ったのですが、僕はRIの、地区のラーニングセンターというのがございまして、そのなかの、一応、第2790地区の中ではトップの点数を（会場 拍手）持っています。実は、皆さん、やっていないので、これから時田さんは、やらねばいけないのです。すぐ、ちょっと頑張れば、私なんか越せる。今、寒郡さんが、私を越すために、一生懸命にやっているんですが、現状は私がトップでございまして、まあ、そんなことをしながら、自分なりに少しずつ、こう、ロータリーに対する考え、自分なりのほうが、自分なりのロータリー観は、どこいっても、きちっと、話せる自信があります。ですから、それがなければ、PETSが、地区協でやりましたが、今度、地区大会がありますけれども、皆さんの前でですね、自分の気持ちを述べるということが、できません、それだけは、僕は影でやっているつもりですから、そんな気持ちを地区の会員の、皆がもってくれたら、もっと、「ロータリーの話し」に、「ロータリーで酒が飲める」と。ロータリーの話肴にして酒を飲める。そんなようになろうと、是非、それを育ててくださるのが、皆さんの世界。どうぞ、よろしくお願いいたします。今日は、本当にお疲れ様でした。



総評 RLI推進委員会アドバイザー 海寶 勘一（千葉西RC）

皆さんこんにちは。お疲れ様でした。鶴澤ガバナー年度に入って、初めてRLI活動に参加させて頂きました。この千葉市民会館に、この部屋に集まって、皆さんにお話、顔を合わせて、お話ができる喜び、これは、もう、お一人お一人の温度差が違ふと思いますけれども、古い方ほど、「なんかここに来ると、ほっとするな。」という気がすると思います。そのなかの一人として、「もう、いいんじゃないか。」と陰で言っている方も、いるほど、参加させて頂きましたけれども、やはり、今日、なにか、市民会館で集まりがあると思うと、つい他の用事を断って、参加してしまう。今、鶴澤ガバナーがお話をされておりましたけれども、ロータリー観というのは、様々、お一人お一人考えが、あると思います。でも、ここにこう、集まってみると、自分の個性というものを、一旦、引き留めて、人の意見を聞いてみる。こういうなんか、雰囲気を感じませんか。RLIというのは、なんか、クラブ例会と違った雰囲気があって、仲間と、楽しく、時間を共有し、話題をもって、時間を忘れて、話しができる。そんな空間がRLIじゃないかと思います。アドバイザーという、なんか、私にとっては、申し訳ないというほど、お役目がありますけれども、これから、一年間。 鶴



澤年度、RLIが、始まりますけれども、少しでも、お役に立てる、努力をしますので、何なりと、お聞きになったり、ご指示を頂ければ、有り難いと思います。先程、第4セッションになりますか、お仲間にさせて頂いて、RIについていろいろ、昔を振り返り、またこれから、どうしたらいいんだろう。という熱のこもった、話し合いに、参加させて頂きましたけれども、やはり皆さん、RLIに参加して、それをもっとクラブに持ち帰って、クラブの活性化につなげようという話しが、最後の結論になりました。ここに参加されている方々、鶴沢ガバナーが、目指す、クラブを活性化しようという意気込みがありますので、是非、お一人お一人が、クラブに帰って、リーダーから、ファシリテーターに今、変わりましたけれども、良きファシリテーターとして、このRLIに参加し、また、新たな、仲間を、RLIに、誘って頂ければと思います。整った挨拶になりませんけれども、この一年間、また、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



諸事お知らせ RLI推進委員会 松岡 邦佳（木更津東RC）

はい。RLI推進委員会の松岡と申します。東さんの名前が書いてあって、東さんの名前で発表しようかと思ったのですが、（会場 大笑）東さんが、来ないうちに、悪評が回ってしまうと可哀想だと思って、（会場 大笑）私、RLI推進委員会の松岡から、諸事を御連絡させて頂きたいと思います。三点お願いがあります。

1点目

本日一番最初に配られた、青木さんの資料の、最後のところに、今後の日程が入っております。

是非、今日、懇親会に行かれる前に、日程を、手帳に書き込んで、頂きたいなど、思っております。

よろしく申し上げます。

2点目

懇親会が、地図が本日の資料に入っております。出来る限り、はやく乾杯をしたいという、皆さんの、心の声が聞こえてますので、

この後、スムーズに、御移動頂いて、できるかぎり早く、乾杯をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

最後に、一番大事なお知らせです。

次回、10月7日にブラッシュアップ2が、行われます。皆さんにお願いなのは、僕は予習してこなくて、良いと思っているのですが、どうしても委員長がしろと言うので、ごめんなさい。えーと。このテキストの第2章と第3章を、事前に、お読み頂いた上で、参加して頂けると、大変助かりますので、よろしくお願いし

ます。第2章と第3章を読んでいるのが、前提で、スタートしますので、是非、事前にお読み頂いて、事前に読めない方は、12時にここに来て頂いて、下の喫茶店で、読んでから参加して頂ければ、(会場 笑) 助かりますので、よろしくお願いします。

この後、懇親会でよろしくお願いします。

以上、松岡からの諸事御連絡でした。どうもありがとうございました。

御礼挨拶 RLI推進委員長 清田 浩義 (千葉 RC)

今日は、ありがとうございました。また、第1回ということで、これを皮切りに、新しいファシリテーターの集まりが、ここでスタートした。こんな感じであります。青木実行委員長を中心に、いろいろな試行錯誤、是非、していきたいと思えますし、今日は、鶴沢ガバナー、時田さんもいらっしゃるので、これから新たな、地区のなかでの、RLI活動に、邁進したいと思えます。是非、今後ともよろしくお願いします。今日は、一日、ありがとうございました。

今期日程

2023年 9月3日(日) RLIブラッシュアップ研修会 1 13時15分～17時 千葉市民会館
2023年 10月7日(土) RLIブラッシュアップ研修会 2 13時15分～17時 千葉市民会館
2023年 11月4日(土) RLIブラッシュアップ研修会 3 13時15分～17時 千葉市民会館
2024年 2月10日(土) RLIパートI 9時10分～17時 千葉市民会館
2024年 3月9日(土) RLIパートII 9時10分～17時 千葉市民会館
2024年 4月6日(土) RLIパートIII 9時10分～17時 千葉市民会館
2024年 5月11日(土) 卒後コース 13時15分～17時 千葉市民会館
2024年 6月8日(土) FT養成コース 13時15分～17時 千葉市民会館

今期チーム編成

Aチーム チームリーダー 坂下 雅紀(千葉東 RC) サブリーダー 手塚 隆雄(千葉東 RC)
Bチーム チームリーダー 山本 衛(松戸西 RC) サブリーダー 大野 雅章(千葉 RC)
Cチーム チームリーダー 松岡 邦佳(木更津東 RC) サブリーダー 佟 雪蓮(白井 RC)
Dチーム チームリーダー 長井 弘亘(市川南 RC) サブリーダー 東 孝俊(千葉 RC)
Eチーム チームリーダー 清田 浩義(千葉 RC) サブリーダー 櫻井 宇人(千葉 RC)
Fチーム チームリーダー 周藤 行則(浦安 RC) サブリーダー 小久保 和子(八街 RC)

第1回ブラッシュアップ参加者

鵜澤和広ガバナー

セッションチーム1

青木 洋明 (千葉北 RC)
坂下 雅紀 (千葉東 RC)・
手塚 隆雄 (千葉東 RC)
山本 衛 (松戸西 RC)
大野 雅章 (千葉 RC)
石引 美貴 (市川南 RC)

セッションチーム2

松岡 邦佳 (木更津東 RC)
佟 雪蓮 (白井 RC)
長井 弘亘 (市川南 RC)
江上 俊彦 (千葉東 RC)
矢野 憲治 (千葉中央 RC)
百瀬 隆行 (市川南 RC)
ゲイビ アデル (柏西 RC)

セッションチーム3

清田 浩義 (千葉 RC)
櫻井 宇人 (千葉 RC)
時田 清次 (市原中央 RC)
小林 信雄 (東金 RC)
山本 要子 (千葉港 RC)
櫛田 仁一 (柏西 RC)
矢代 秀明 (浦安ベイ RC)

セッションチーム4

神崎 誠 (成田 RC)
周藤 行則 (浦安 RC)
小久保 和子 (八街 RC)
諸岡 靖彦 (成田 RC)
海寶 勘一 (千葉西 RC)
西田 貴一郎 (千葉東 RC)
櫻井 守 (千葉 RC)